

＜神奈川宿 歴史の道を歩く＞

10月5日、23名が参加して幕末の東海道神奈川宿の根跡を訪ねました。
コロナウィルス感染拡大により、長期間中止を余儀なくされていた散策です。
9月末で緊急事態宣言が解除され、久々の散策となりました。
神奈川宿は、近代都市横浜の母体となったところです。
開港当時、多くの寺は外国の領事館などにあてられました。



神奈川宿最古の寺 金蔵院

本堂前には、徳川家康の「御手折梅」と称された梅の古木があり、かつて毎年1月に当院の住職がこの梅の一枝をたずさえて登城するのがならわしであったといわれています。

強い日差しの中、参加者はマスク着用です。

説明者は、久しぶりのご案内に少し緊張気味です。



昼食を摂った幸ヶ谷公園

幸ヶ谷公園は、古戦場としても知られる権現山の跡地です。
権現山は、幕末から明治にかけて削り取られ、その土は鉄道用地の埋め立てにもつかわれ「消えた権現山」といわれました。
初参加の男性も交え、緑陰で和気あいあいと会話も弾んでいる様子です。



本覚寺で記念撮影

本覚寺は 1859 年の横浜開港後、4 年間アメリカ領事館として使われました。本尊を板囲いで覆い、山門をペンキで塗り、日本人の立ち入りを禁じたといわれます。

生麦事件（1862 年）の負傷者マーシャルとクラークが、この寺に逃げ込みヘボン博士の治療を受けたといわれています。

10 月というのに真夏のような日差しに、皆さん少々お疲れの様子です。